

2024年4月21日
宮崎中部教会主日礼拝
牧師 乾元美

エレミヤ書 31 : 31～34
マタイによる福音書 5 : 1～12
「山上の説教」

【招詞】 イザヤ書 35 : 1～2

【讃美歌】 27 「父、子、聖霊の」

【詩編交読】 詩編 38 編

【赦しの宣言】 イザヤ書 55 : 7 「主に立ち帰るならば、主は憐れんでくださる。
わたしたちの神に立ち帰るならば／豊かに赦してくださる。」

【讃美歌】 353 「父、子、聖霊の」

【祈祷】

【聖書】 エレミヤ書 31 : 31～34
マタイによる福音書 5 : 1～12

【説教】 「山上の説教」

<生きるための土台>

先ほど読まれた聖書の箇所は、イエスさまの「山上の説教」の初めの部分です。「心の貧しい人々は、幸いである」。この説教は、そのようなイエスさまの宣言から始まります。そして、この5章から7章の終わりまで、イエスさまの教えは続いています。

5章の初めの「幸いである」という教えの後には、あなたがたは「地の塩、世の光」である、という教えが続きます。それから、律法について語られた後に、あの有名な「敵を愛しなさい」という教えがあります。6章に入ると、神さまを「わたしたちの父よ」と呼び求める「主の祈り」が教えられます。そして、「思い煩うな」と教えられ、7章に入ると「求めなさい。そうすれば与えられる」と言われ、最後には「家と土台」の教えが語られて、この説教は閉じられるのです。

最後の「家と土台」の教えで、イエスさまはこう言われます。7 : 24～25 のところをお読みします。「そこで、わたしのこれらの言葉を聞いて行う者は皆、岩の上に自分の家を建てた賢い人に似ている。雨が降り、川があふれ、風が吹いてその家を襲っても、倒れなかった。岩を土台としていたからである。」

つまり、ここまで語られてきた「山上の説教」のイエスさまの教え、イエスさまの御言葉を土台にして人生を歩む人は、どんな嵐が来ても、どんな洪水が来ても、どんな台風が来ても、決して倒れない、ということです。

「山上の説教」は、イエスさまに従う人々、つまりわたしたちの、生活の土台、人生の土台、生きるための土台となることが、語られているのです。

でも、この「山上の説教」は、ここでイエスさまが語られた御言葉を、あなたがたが一所懸命に頑張っていけば、手堅い人生を歩むことができる。教えを忠実に守るなら、倒れないで、転ばないで、上手に生きることが出来る、と教えているわけではありません。

そうではなくて、イエスさまに従うならば。イエスさまに依り頼んで歩いていくなれば。あなたがたはイエスさまによって、倒れることはない。イエスさまに従っているあなたがたのことは、イエスさまが、支え、守り、救ってくださるのだから、嵐でも、洪水でも、台風でも、あなたがたは耐え忍ぶことができるし、倒れることはないのだ。そう言われているのです。

だから、あなたがたは、このイエスさまの御言葉に聞き従いなさい。イエスさまが共にいてくださるのだから、あなたがたは、この御言葉を聞いて、行うことが出来る。この御言葉のように生きることが出来るのだ。そう言われているのです。

<山の上で>

さて、この説教は、イエスさまの御言葉を聞き、イエスさまに呼ばれ、イエスさまに従ってきた弟子たち、また従ってきた群衆に向かって、語られました。

そしてイエスさまは、この教えをどこで語られたか。5:1にはこうあります。

「イエスはこの群衆を見て、山に登られた。腰を下ろされると、弟子たちが近くに寄って来た。」

イエスさまは、この教えを、山に登って語られたのです。

さて、ここに、一つの旧約聖書と対比されるイメージがあります。

神の御子イエスさまが、山の上で、従う者たちに、御言葉を、教えを、与えられた。

それは、父なる神さまが、モーセを通して、シナイ山の上で、イスラエルの民に神の言葉、「十戒」の教えを与えられた場面と、重なってくるのです。

<古い契約>

旧約聖書の時代、神さまは、イスラエルの民を、ご自分の民として選ばれました。それは、このイスラエルの民を通して、地上のすべての人々を救い、祝福するためです。

そのために神さまは、エジプトで奴隷として苦しめられていたイスラエルの民を、解放し、導き出し、救い出して下さいました。

そして神さまは、シナイ山で、モーセを通してイスラエルの民と契約を結ばれたのです。

それは、神さまが、イスラエルの民の神となってくくださること。そして、神さまが、イスラエルの民を、ご自分の神の民としてくださる、という契約でした。そして、彼らを導き、約束の地へ連れて行ってくださると。

この契約に伴って、神さまは、イスラエルの民に、「十戒」を与えられたのです。

「十戒」は、神さまに救い出されたイスラエルの民が、神さまの民として生きていくため。神さまと正しい関係を築き、神さまとの親しい交わりに生きていくために、神さまが与えてくださった教えであり、御言葉です。

「十戒」は、こういう御言葉で始まりました。「わたしは主、あなたの神、あなたをエジプトの国、奴隷の家から導き出した神である。あなたには、わたしをおいてほかに神があってはならない」(出エジプト記 20：2～3)。

…さて、ここで大切なのは、イスラエルの民は、この「十戒」を守れば救ってやる、と神さまに言われたのではありません。

まず、神さまが先に、イスラエルの民を解放し、導き、救い出してくださいました。この救いの事実が先にあって、だから、あなたたちは、この救って下さった神さまだけを、まことの神とし、感謝と喜びをもって歩みなさい。そう教えられたのです。

ところが、イスラエルの民は、この神さまとの契約を、こっぴどく破ってしまいます。彼らは、神さまの御言葉に背き、救われた恵みを忘れ、偶像を拝み、神さまとの関係をめちゃくちゃにしてしまったのです。

恩を仇で返すどころではありません。とんでもない裏切りです。しかも相手は、世界をお造りになった、全知全能の、聖なる神であるお方です。

ですから、そのように、神さまに対して罪を犯し、御名を汚し、一方的に契約を破った民は、もう神さまに見捨てられても仕方なかった。永遠に神さまから見放されて、滅ぼされても、文句は言えないような状況だったのです。

しかし、それでも神さまは、ご自分が選ばれたイスラエルの民を、愛し続けられました。神さまは、契約を結んで、ご自分のものとされた民を、決して裏切ることなく、見捨てることなく、民に対して、誠実であり続けてくださったのです。

ここで知らされるのは、神さまは、イスラエルの民が、そしてこのわたしたちが、正しいから、良いものだから、救ってくださるのではない。わたしたちが、誠実で、賢くて、素直だから、愛してくださるのではない、ということです。

神さまは、何の条件もなく、わたしたちを愛しておられるのです。

わたしたちが、どんなに悪くても、背いても、疑い深くても、愚かでも、弱くても。それでも、ご自分がお造りになった一人一人を、慈しみ、憐れみ、宝物のように、大切に愛して下さっているのです。

ですから、神さまは、背き、逆らったイスラエルの民を、それでも、愛し続けてくださり、お見捨てになることはありませんでした。

そしてまた、このイスラエルの民を通して、お造りになった、世界のすべての人々を祝福する、という約束を、決してお忘れにはならなかったのです。

だから神さまは、もう一度、イスラエルの民と、地上のすべての人間のために、「新しい契約」を結ぶことを、約束してくださいました。

今日読まれた、旧約聖書のエレミヤ書 31：31～34 にはこうありました。

「見よ、わたしがイスラエルの家、ユダの家と新しい契約を結ぶ日が来る、と主は言われる。この契約は、かつてわたしが彼らの先祖の手を取ってエジプトの地から導き出したときに結んだものではない。わたしが彼らの主人であったにもかかわらず、彼らはこの契約を破った、と主は言われる。しかし、来るべき日に、わたしがイスラエルの家と結ぶ契約はこれである、と主は言われる。すなわち、わたしの律法を彼らの胸の中に授け、彼らの心にそれを記す。わたしは彼らの神となり、彼らはわたしの民となる。そのとき、人々は隣人どうし、兄弟どうし、『主を知れ』と言って教えることはない。彼らはすべて、小さい者も大きい者もわたしを知るからである、と主は言われる。わたしは彼らの悪を赦し、再び彼らの罪に心を留めることはない。」

<新しい契約>

そして、この、「新しい契約」を携えて、この世に来てくださったのが、神の御子イエスさまなのです。

イエスさまは、この神さまの「新しい契約」を実現するために、わたしたちと「新しい契約」を結ぶために、神さまから遣わされたお方なのです。

イエスさまは、イスラエルの民と、そして地上のすべての人々が、わたしたちが、神さまに背き、逆らった、そのすべての罪を担い、ご自分の十字架の死を贖いとして、わたしたちに、罪の赦しを得させてくださいます。

そして、復活の恵みによって、罪の赦しを信じる者に、神さまと共に生きる、新しい命を与えてくださいます。

かつて、イスラエルの民が、神さまによって、エジプトの奴隷から解放され、導き出され、救われたように。今や、わたしたちすべての人間は、御子イエスさまの十字架と復活の御業によって、罪と死の奴隷から解放され、導き出され、救われるのです。

このイエスさまの救いを信じる者は、誰でも、神さまの「新しい契約」に与ることが出来ます。そうして、神さまの民となり、神さまとの親しい交わりに生きていくことが出来るのです。

だから、イエスさまは、ご自分に従ってきた者たちに。ご自分の十字架と復活によって、罪と死から解放し、救いを与えてくださるわたしたちに。山の上で、「新しい契約」に基づく、「新しい教え」を、与えてくださるのです。

<幸いである>

だからこそ、イエスさまの「山上の説教」の教えは、「あなたがたは幸いである」との宣言から始まります。

「あなたがたは、幸いだ。わたしが来たから幸いだ。わたしの言葉を、今このように聞いているから、幸いだ。」そうイエスさまは、言ってくださるのです。

イエスさまは、ご自分の許にいる者たちに、わたしたちに、語りかけてくださいます。

「わたしが、あなたの罪を担い、あなたのために十字架にかかり、あなたに罪の赦しを得させる。わたしが、あなたのために復活し、あなたに命を与え、あなたを天におられる神と共に生きる者、神の子どもとして生きる者とする。だから、あなたがたは、幸いだ。

あなたがたは、このわたしと出会い、わたしの呼びかける声を聞き、わたしに従ってきた。このわたしに、頼ってきた。それでよい。あなたは、わたしと共に罪に死に、わたしと共に、神と共に生きる者となる。だから、あなたがたは、幸いだ。

だから、わたしと共にあるあなたがたは、この教えのように生きていきなさい。いや、このように、生きていくことが出来る。

貧しくても、悲しくても、迫害されても、わたしと共にあるあなたがたは。神さまの御国に生きるあなたがたは。まことの幸いを、生きていくことが出来るのだ。」

そう言って、教えられたのが、「山上の説教」なのです。

わたしたちの目の前に、わたしたちを救ってくださる、イエスさまがおられるのです。

わたしたちを、ご自分の命を捨てても、罪と死から救い出して下さる方が。どのような時も、どこにあっても、わたしたちを支え、守り、救い出して下さるお方が。目の前に立って、語りかけてくださっているのです。

このことこそ、わたしたちにとって、まことに幸いなことなのです。

エレミヤ書 31：33 には「すなわち、わたしの律法を彼らの胸の中に授け、彼らの心にそれを記す」とありました。かつて、旧約聖書においては、神さまの御言葉、教えである「十戒」は「石の板」に刻まれました。

でも、「新しい契約」は、わたしたちの胸の中に授けられます。イエスさまの「新しい教え」は、わたしたちの心に記されます。

そうして、神の御子イエスさまによって、「新しい契約」に与ったわたしたちは、「新しい神の民」として、イエスさまの「新しい教え」に従って、イエスさまの後について行き、約束の地へ、御国の完成へ向かって、共にまことの「幸い」を歩いていくのです。

【お祈り】

天の父なる神さま

あなたは、御子イエスさまによって、わたしたちの罪を赦し、永遠の命を与える「新しい契約」と、その救いの恵みに生きるための「新しい教え」を、授けてくださいました。

わたしたちが、罪と死の奴隷から救い出され、「新しい神の民」として生きるために。イエスさまは十字架で死に、そして復活し、わたしたちを、神さまの愛と命のご支配へと招いてくださいました。

どうか、わたしたちを、イエスさまの呼びかけに、感謝と喜びをもって応え、心から従う者とならせてください。

そして、イエスさまの救いの恵みを、人生の土台として。嵐でも、洪水でも、台風でも、共にいてくださる主に支えられて、倒れずに歩いていくことが出来る、まことの「幸い」に、生きる者とならせてください。

そしてどうか、一人でも多くの者が、イエスさまのお招きに応え、共に「新しい神の民」とされ、共にあなたを礼拝し、共に「幸い」の道を歩いていくことが出来ますように。

このお祈りを、主イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン

【讃美歌】 503 「ひかりにいます主」

【信仰告白】 ニカイア信条

【十戒】

【献金】 65-1 「今そなえる」

【主の祈り】

【祈祷】

【讃美歌】 28 「み栄えあれや」

【祝福】 主があなたを祝福し、あなたを守られるように。

主が御顔を向けてあなたを照らし あなたに恵みを与えられるように。

主が御顔をあなたに向けて あなたに平安を賜るように。

主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりが、
あなたがた一同と共にあるように。アーメン